阿賀野川流域地域フィールドミュージアム事業　新潟県

第３号
2010.11.10

阿賀野川 え～とこだより
aganogawa E-toko dayori

撮影：山口冬人（NPP新潟県写真家協会理事）

もくじ

阿賀野川え～とこだ！環境学習特集 ―― 2
環境学習プログラムお試し版 ―― 3
阿賀野川え～とこだ！環境学習基本理念 ―― 4
真の阿賀野川ブランドの確立を ―― 6
紙芝居「阿賀野川物語」絶賛上演中 ―― 7
映像作品「ハーモニカ長屋から
眺めた風景」完成 ほか ―― 8

新潟水俣病の記憶と教訓を未来へ活かす舞台、阿賀野川流域地域。

真の阿賀野川ブランドをみんなで築く、そのための環境学習を。

新潟水俣病の発生を境に失われていった流域の「人と人との絆」や「人と自然との関係」。その紡ぎ直しを目指す「阿賀野川え～とこだプロジェクト」（ＦＭ事業）では、これまで、流域の歴史や地域の「光と影」に流域の方々と共に向き合いつつ、新潟水俣病に対する様々な記憶や想い、感じ方を拾い上げてきました。

「これら光と影の記憶や感じ方を未来へどうつなげていくのか？」ＦＭ事業が始まって以来、流域内外の多くの方々から問われ続けている課題です。それは、新潟水俣病の記憶と教訓を流域の未来に活かすことができる道を、地域に暮らす方々と共に模索していくことではないか？と考えています。

これを進めていくことで、流域に溢れる「阿賀の宝もん」の数々をこれまで以上に自信を持って自慢できる「真の阿賀野川ブランド」として築くことができるかもしれない。今号では、そのための方法として環境学習を特集しました。

総合プロデューサー　小川弘幸

映像作品「ハーモニカ長屋から眺めた風景 ～写真で綴る鹿瀬・昭和電工・阿賀野川」完成！

ほんの少し前までの阿賀野川、忘れられた光と影。当時を知る人も知らない人も、なぜか心揺さぶられる写真の数々。阿賀野川流域でかつてあった、日本の近代化と公害の発生が表裏一体となった歴史の一面を、昔の写真と流行歌で綴った映像作品が完成しました。

〈ご覧になられた方の感想〉
- 昔を知る私たちには懐かしく、音楽も良かった。（70代）
- 戦後の復興や経済成長を支えてきたと分かった。公害は許されることではないが、昔の風景は懐かしかった。（60代）
- 現在の鹿瀬しか知らない者には、当時の鹿瀬の様子は想像できないと思った。（40代）

今年3月に阿賀町で開催した地域再発見講座（第2回）。ハーモニカ長屋と呼ばれた昭和電工の社宅で、高校卒業まで過ごされた沖田信悦さんをゲストに迎え、あの頃の企業城下町・鹿瀬を、会場を訪れた大勢の皆さんと共に振り返りました。

FM事業では、その際に会場で流された当時の貴重な写真の数々を基に、映像作品を制作しました。今夏から、流域にお住まいの方々などにご覧いただいています。

今後、様々な機会をとらえて、流域各地で映像作品を上映して回る予定です。ぜひご期待ください！

「阿賀野川え～とこだプロジェクト」とは？

正式には「阿賀野川流域地域フィールドミュージアム事業」(通称 FM 事業) と言い、阿賀野川流域の各地域がかつて発生した新潟水俣病と向き合い、それを乗り越えるような「人と人の絆」や「人と自然の関係」を紡ぎ直すため、流域の住民・行政・民間団体が手を取り合い、「新しい地域づくり」を目指して始まったプロジェクトです。

阿賀野川え～とこだ！憲章（事業理念）

私たちは新潟水俣病に学び教訓を伝承することで、負の遺産から新たな価値を創造していくことを目指します。阿賀野川流域の宝物を広く内外に発信しながら、公害により失われた人と人、人と自然、人と社会の絆をつむぎ直していきます。地域を愛する人が地域の未来をつくる「流域自治」の確立へ向けて行動します。　（阿賀野川流域地域フィールドミュージアム事業推進委員会）

編集後記

第3号はいかがでしたか？創刊号は草倉銅山、第2号はロバダン！、そして今号の環境学習…。内容がだんだん難しくなってる（汗）。そろっと、流域のみなさんがFM事業に親しみを見出しづらくなってるかもしれない…と考え、今号では、FM事業が目指そうと考える流域の未来と、流域で暮らすみなさんとの「接点は何か」にこだわってみました。みなさんの心に何か響きましたでしょうか・・・。環境学習へのご意見をお待ちしています。

その他ご意見、ご感想、お宝情報もお待ちしています。第4号からはいろんな連載を開始予定、来年1月の発行を目指します。ご期待ください！

阿賀野川え～とこだより 第３号
発　　行：新潟県（2010年11月10日）
企画編集：阿賀野川え～とこだプロジェクト
〈事務局／〒959-2221 阿賀野市保田3866-1〉
TEL.&FAX.0250-68-5424
aganogawa@niigata.email.ne.jp

「阿賀野川え～とこだ！ブログ」
そろそろ・・・
http://www.aganogawa.info/
衣替え検討してます…。

阿賀野川え～とこだ! 環境学習 平成23年から いよいよスタート!

これまで流域の歴史や地域の光と影に向き合ってきた阿賀野川え～とこだプロジェクト（FM事業）。そんなFM事業で、今、なぜ環境学習なのか? それはどのような環境学習なのか? そして、どのような流域の未来を目指しているのか?

かつて、帆かけ舟が多数往来し、鮭やマス、川魚が豊富に獲れ、子ども達が楽しげに遊び、人々の生活の場そのものだった阿賀野川。しかし、明治以降、上流に様々な企業が進出し、日本の近代化を華々しく支えた裏で、新潟水俣病を始めとする公害が阿賀野川に暗い影を落としていきました。

FM事業の目的は失われた絆の回復

新潟水俣病の発生を境として、日本全体が豊かになる過程と歩調を合わせるように、流域の「人と人との絆」や「人と自然との関係」が崩れていきました。FM事業の目的は、かつて流域に存在し今は失われたかに見えるこの「二つの絆」を、何とか取り戻すことです。

そのため、これまでのFM事業では、流域の歴史や地域の光と影に向き合うパネル巡回展や地域再発見講座を開催し、同時に、流域各地で展開した「ロバダン!」（炉端談義）を通じて、新潟水俣病や地域に対する、流域の方々の様々な記憶や感じ方を探ってきました。

絆の回復を継続するために、環境学習を

FM事業では、失われた絆を取り戻すこうした試みを流域全体で長期に渡って継続していくためには、全国に向けて発信できる阿賀野川流域独自の環境学習を展開することが、最も理想的な方法ではないかと考えています。

具体的には、この「阿賀野川え～とこだ!環境学習」を通じて全国の多くの方々から流域を来訪していただき、流域に暮らす方々と協力して新潟水俣病の記憶と教訓を伝えた上で、「阿賀の宝もん」の数々を本当の自信と誇りを持ってアピールしていきたいと考えています。

基本理念とプログラム準備後、いよいよスタート!

阿賀野川流域を舞台とした環境学習をつくりあげていくために、まず、流域の環境の専門家などから、環境学習を進める上での大切な羅針盤となる「基本理念づくり」に着手してもらいました。原案はほぼ完成し、現在は、流域の方々から様々な意見を頂戴しています。

この基本理念を基にして、各地で収集した資料や流域の豊かな自然環境、そして、これまで掘り起こした流域の光と影を題材に、環境学習プログラムづくりを逐次進めていきます。これらの準備が整う平成23年から、「阿賀野川え～とこだ!環境学習」がいよいよスタートします!

今夏、環境学習プログラムお試し版を実践してみました!

この夏、「新潟水俣病スタディツアー」（あおぞら財団主催）が開催され、公害問題と地域の再生を学ぶため、県外から多くの大学生や教員が流域を来訪。FM事業では、鹿瀬地域を舞台としたコースをプロデュースしました。将来、「阿賀野川え～とこだ! 環境学習」が提供する環境学習プログラムは、こんなイメージです!

いざ現地へ!

まず、紙芝居「草倉銅山物語」で座学♪
〈塩屋橋（阿賀野町塩川）〉

変哲のない風景から歴史の光と影が見えてくる!〈草倉銅山本山〉

かつて昭電で栄えた街並もめぐった後・・・
〈旧昭和電工（株）鹿瀬工場跡地（阿賀町向鹿瀬）〉

当時の鹿瀬の写真映像を観賞
〈阿賀町役場鹿瀬支所〉

コース参加者の感想

- 同僚の若い先生に学んだことを伝えたい（小学校教諭）
- 大学の友人に校外や地元のことを見つめ直すよう働きかけたい（大学生）
- 本で得た知識しかなかったが、現場に行って実感として伝わってきた（大学生）

- 当時の人々の立場だったら…
- 自然との共生とは…
- 真の地域づくりとは…

参加者の考えを深めるプログラムを目指して…

「阿賀野川え～とこだ！環境学習」基本理念

概要版

～新潟水俣病の教訓を未来に生かせる環境学習を目指して～

「阿賀野川え～とこだ！環境学習」を進めていく上での基本的な考え方がたくさん詰まった基本理念。いわば、環境学習の羅針盤です。ここでは理念の概要版を紹介しますので、付録の理念本文と併せてご覧ください！

基本理念づくりの経緯

流域の環境の専門家など10名が参加する「環境理念ワーキングチーム」を平成21年6月から8回開催し、この理念の原案づくりを行いました。現在は、ロバダン!（炉端談義）などを通じて、流域の方々から様々なご意見を伺っています。

これまでの阿賀野川流域

■阿賀野川は「いのち」を育む川でした。流域は、自然の恵みや潤いのある暮らしなど「阿賀の宝もん」に溢れていました。
■昭和30年代、阿賀野川が有機水銀に汚染され、新潟水俣病が発生してしまいました。
■住民の生命や健康が奪われ、地域の絆も傷つきました。
■問題は今も続いています･･･。

現代社会の環境問題は…

■今日の社会でも、「ごみ問題」など身近な環境問題が残っています。
■また「地球環境問題」も深刻です。国境を越えて被害が広がる「地球温暖化」など、地球規模の新たな環境問題に直面しています。
■これらは、産業活動だけでなく、個々人の生活も原因なので、解決が非常に難しいです。

阿賀野川流域だからこそ、今日の環境問題と向き合えるヒントがあります

阿賀の宝もん

阿賀野川流域に残る様々な「阿賀の宝もん」から環境が学べる

●流域の貴重な動植物の数々から、自然と共生することの意義を学べます。
●流域の生活の営みから、豊かな恵みを絶えさせず自然と良好に付き合う知恵が学べます。
●近代社会が流域の自然に残した足跡から、近代化の光と影の歴史が学べます。

新潟水俣病

今日にも通じる「新潟水俣病の教訓」から環境が学べる

●「いのちのつながり」を何よりも尊重する価値観に気づくことができます。
●人間も大きな生態系の一部であることを実感し、自然と共生する知恵を学べます。
●相手の立場に立って考える心情や問題を解決する意志を育みます。

新しい地域づくりへの呼びかけ

体験参加者

自分の生活を見直す実践へとつながる知恵や力を身につけ、持続可能な社会づくりに向けた一歩を踏み出す自分になれます。

出迎える側

「地域の光と影」に向き合い、地域をより深く理解することで、流域に対する本当の自信と誇りが芽生えてきます。

地域として

新潟水俣病の経験に向き合い、教訓を地域の暮らしに取り込みます。「阿賀の宝もん」となるよう流域から発信していきます。

この基本理念を基に、環境学習プログラムづくりを進めていきます。基本理念の中身は、環境学習の進展に応じて、または、皆さんからの様々な意見を取り込む中で、これからも少しずつ良いものにしていきたいと考えています!

真の阿賀野川ブランドの確立こそ、最大の「阿賀の宝もん」!

新潟水俣病により失われた絆の回復を目指すFM事業と、流域に暮らす方々との接点はどこにあるのか？理念づくりに携わったワーキングチームメンバーが見出す方向性は、環境学習を進めた先に見える、「真の阿賀野川ブランド」の確立

「阿賀野川え～とこだ！環境学習」の理念はいかがでしたでしょうか？全体的に長く感じられたかと思いますが、阿賀野川流域がそれだけ多くの魅力や奥深さを内に秘めていることの証だと考えています。

阿賀野川流域こそ環境学習に最もふさわしい舞台

環境学習が本当に意味を持つためには、机上の学習だけではなく、実際に目にしたり触れたりして五感に訴える体験型学習が必要です。さらに、これからの時代の環境問題などの解決に向けて実践に踏み出せる考え方や意志を■■ことが、最も重要となってきます。

その意味で阿賀野川流域地域は、上流のブナ林を始め、瓢湖や福島潟、十二潟や松浜の池など、流域住民と共生してきた貴重な動植物の宝庫であり、それらは生物の多様性がいかに大切かを教えてくれます。

また、明治期の草倉銅山や昭和の高度経済成長期を支えた企業の操業など、日本の近代化と公害の発生が表裏一体となった歴史を現地でたどり、現代にも生かせる当時の人々の様々な立場や多様な教訓を学びとれるなど、これからの時代の環境学習に最もふさわしい地域のひとつと言えます。

流域が新潟水俣病を乗り越えることで生まれる力

しかし、何にも増して重要なことは、阿賀野川流域地域に暮らす方々が新潟水俣病の記憶と教訓に向き合うきっかけが、この環境学習を通じて得られることではないかと考えています。

これまでロバダン！で流域を巡り様々な方々の思いに触れた時、それぞれの「阿賀の宝もん」を自慢したいのに新潟水俣病の記憶が思い出されて躊躇してしまう人々が大勢おられることに気づかされました。また、現在の流域では環境問題に関する様々な取組や活動が行われていますが、これまで流域で発生した最大の環境問題である新潟水俣病が扱われることはほとんどありませんでした。

もし、阿賀野川流域が、地域全体で新潟水俣病の記憶と教訓に何とか向き合い、時間がかかってもそれを伝え続けていく姿勢へと変わることができれば、流域に溢れる「阿賀の宝もん」を本当の自信と誇りを持ってアピールできたり、今日の環境問題に関する流域の様々な取組や活動も大きな説得力を獲得できるのではないか。そんな「真の阿賀野川ブランド」が流域において確立されることへの祈りにも似た決意が、この「阿賀野川え～とこだ！環境学習」には込められています。

日本自然環境専門学校　校長　五十嵐 実

五十嵐　実／一九五九年生まれ。新潟市中央区在住。日本自然環境専門学校校長ほか、県の審議会委員など多数の役職を務める。FM事業の環境理念ワーキングチームのメンバーのひとりとして、本環境学習の理念づくりに携わってきた。

短期集中コラム●「阿賀の宝もん」から考える地球環境問題

今も昔も広大な山林に覆われた、自然豊かな阿賀野川流域地域。かつての流域では、広大な山林から材木を切り出し筏に組んで、阿賀野川を上流から下流へと流し、建築用や燃料用として新潟市で重宝されていた。

筏による木材の運搬は、江戸時代から始まり明治時代にもっとも盛んでした。津川には筏問屋が三軒あって、およそ百五十人の乗り手がいました。東蒲原郡の木材は、なかなかりっぱだと評判で、新潟市の大きな料理屋さんなどが建物を建てるときはひっぱりだこでした。
（紙芝居「阿賀野川物語」より）

やがて日本が豊かになる中、“便利”の名のもとに、生活を支える燃料の主役は「木」から「石炭・石油」へと移り変わり、阿賀野川の筏文化も姿を消していった。

化石燃料に過度に依存した生活は、めぐりめぐって「地球温暖化」という形で私たちの身に振りかかる一方、かつて評判だった「阿賀の宝もん」は、森林管理に必要な間伐のため切り倒され、広大な山林の中に放置されている。

「地域の特性」を大切に生かさないと暮らせなかった昔。

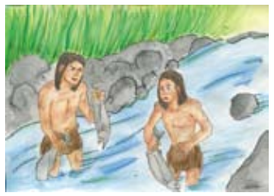
豊かな生活の裏で、世界中の資源を使い続け、地球環境問題が深刻化した現代。

これからのFM事業では、地域も地球環境もどちらも持続可能なように、忘れられた「地域の特性」を再び生かせる道はないのか、探っていきます。

●次号から本格スタート！お楽しみに。

紙芝居 第2弾 「阿賀野川物語」絶賛上演中！

前作、「草倉銅山物語」は、地元・阿賀町を始め各方面で好評を博し、学校でも子どもたちへの読み聞かせが行われるなど、予想以上の反響がありました。紙芝居・第２弾「阿賀野川物語」は、阿賀野川の歴史をたどる中から、本当の豊かさとは何かを問い直す壮大なストーリー。前作同様、今回も制作者「こっこ」へ制作秘話を聞いてみました！



Q 今回の紙芝居制作はいかがでしたか？

「正直…難しかったです。紙芝居として長すぎてもいけないし、縄文時代から現在までの出来事と、未来へのメッセージを盛り込むためにどうしたらいいか、思った以上に作成が進まず大変でした」（山口さん）

Q そうでしたか…。大変だった分、完成した時はどんな気持ちでしたか？

「やっと終わったぁ～って、すごく気持ちが良かったです！」（浅川さん）

Q 上演してみたら、教師の方々からの反響が大きかったと聞きましたが？

「そうなのです！授業で阿賀野川の歴史を教えたいので、紙芝居を欲しいと言ってくださいました。私自身も作成しながら知識が増えたので、教材にも適しているのかな」（板屋越さん）

Q 見どころを教えてください！

「最後のページですね。一番重要な問いかけのシーンなので、今を生きる人たちに共感してもらえるように、試行錯誤を重ねました」（板屋越さん）

「今作は阿賀野川という、広域を流れる川を題材にしたので、阿賀野川を目にする人たちがたくさんいると思います。紙芝居を見た後で阿賀野川を目にした時に、紙芝居を思い出し、そんな歴史もあったんだなと、意識してもらえたら嬉しいです」（山口さん）

●次回作は、いよいよ、３部作の“完結編”です。ご期待ください！

紙芝居制作者「こっこ」

阿賀町の若い女性３人組（浅川奈保子さん・板屋越由希さん・山口茉依さん）からなるグループ。様々な史料や現地を調べた上で、親しみやすい絵とわかりやすい文を心がけて紙芝居を制作。グループ名の由来は“漬け物”を意味する阿賀町の方言。